

場合 696P 18行 697P 18行
 146~148 9/10 18行

国崎古墳群 269P 朝日新聞 4/18年(2006) 10月31日 渥美半島
 697P 13行 表紙の日本(3)九州 100頁に25頁

少々、補足しておきたい。
 従来、地下式横穴は、
 拒んだ卑人の墓とされてきた。
 ところが近年、南九州の古墳時代の墓から、
 地元で作られたとは思えない遺物加次々に見
 りだされている。
 中でも多いのが、五世紀前半の焼き物「初
 期須恵器」
 内などにおいて盛んに作られたものである。
 鉄器の素材になったと考えられる板状の鉄
 塊(第二十「章」単位)において述べる「鉄釘」も
 見いだされた。
 十八号墳一号地下式横穴から二枚出土したという
 大隅半島国崎古墳群の研究「鹿児島大学総合研究博物館、橋本
 達也、二〇〇八年三月発行、二六九~二七〇頁参照」
 地下式横穴から、蛇行状鉄器(蛇行剣)
 の発見が強く考えられる。鉄器類が出土す
 る場合が多い。豆蔵図版 164 174 蛇行状鉄器および横
 さらけ注目されるのは、鹿児島県の東端下
 肝属平野のほぼ中央に位置する大崎町神領十
 号墳出土の人物埴輪(肩持人埴輪)である。
 高さ約二〇倍の頭部、および頭部下端の断

コグヨ ケー20 20x20 2x2
 地図 696P 10/11末
 鉄釘 橋本(本) 105P 国崎18号墳から
 鉄釘が出土した
 405
 考え

同文、昭和10年10月1日
「橋本原古墳群」本の101
大正地誌

岡崎古墳では、周溝から堅穴を掘り、
そこから横穴を掘り上げて玄室を作った例がある
では

697-9/18

こと

③ 春日 上かろ3段目
では

昭和5年に刊行のこの
鹿見島大学校合研究博物館
橋本原古墳群
H22.11.10

面と合致する。胴体部分が見つかった。(写真
図版147・148参照)
・時期は五世紀中頃。人物埴輪として、日
本最古のものの一つである。
この一帯には、人物埴輪が出土した神領十
号墳をはじめとする数多くの高塚古墳へ前
方後円墳などがある。第17図(南九州の墓制分布図)参照
り変わる隼人象。第17図(南九州の墓制分布図)参照
その一で甚だ興味深いことに、
(1) 鹿見島県大崎町の神領十号墳(前方後円墳)
(2) 鹿見島県鹿屋市の岡崎十五号墳(前方後円墳)
(3) 岡崎十八号墳1号・2号(写真図版149・150参照)
(4) 宮崎市の生目七号墳(前方後円墳)
などでは、高塚古墳の地下から、地下式横
穴が見いだされた。(3)へ添えり変わる隼人象参照
木地下式横穴の封土として前方後円墳等が築か
れたのか、それとまた単に、往古の地下式
横穴の真上に前方後円墳等が造られただけなの
か、とひとつた点についてはよく分らない。
宮崎市北西約二〇kmの西都原古墳群中に
地下式横穴約十基が併存している。
* 西都原が地下式横穴分布の北限とみられている
という。(2) 一〇〇頁参照)

同文、昭和10年10月1日
大正地誌
よこあな
掘穴 図101-5
10頁

ヨクヨ ケー20 20×20

おかしな
岡崎とよ由 H22.11.10 橋本原古墳群
鹿見島大学校合研究博物館

・カラー

・左顔の右上(古顔)



697P-10/18

407

1404

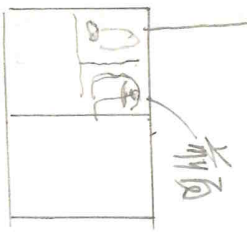
写真図版 147 鹿児島県大山崎町 神領 10号墳出土の人物埴輪

・絵某書 鹿児島大学総合研究博物館 発掘! 鹿児島古墳時代。

・朝田新聞 平成18年10月31日付 <塗り変わる埴人像> 参照。

* 著作権許諾は、博物館のサイトで結構です。

カ7-1
左頁左上(女頁)



697^p-11/18



408

↓

↑カ
7

1404

写真図版 148 盾持人埴輪

1204

鹿児島県大崎町神領10号墳において、頸部の下端と合致する胴体部が

見つかつた。

『鹿児島大学総合研究博物館ニュース』No.19、2008年3月発行、6〜7頁参照。

・カラー
・右側の土層分。

上へかた
り、はれ
て掘削
下さし

上をカ
115mm。

下は直
カ、11
下さし

茶封筒内に有る

697^p-12/18



409

140g

130g

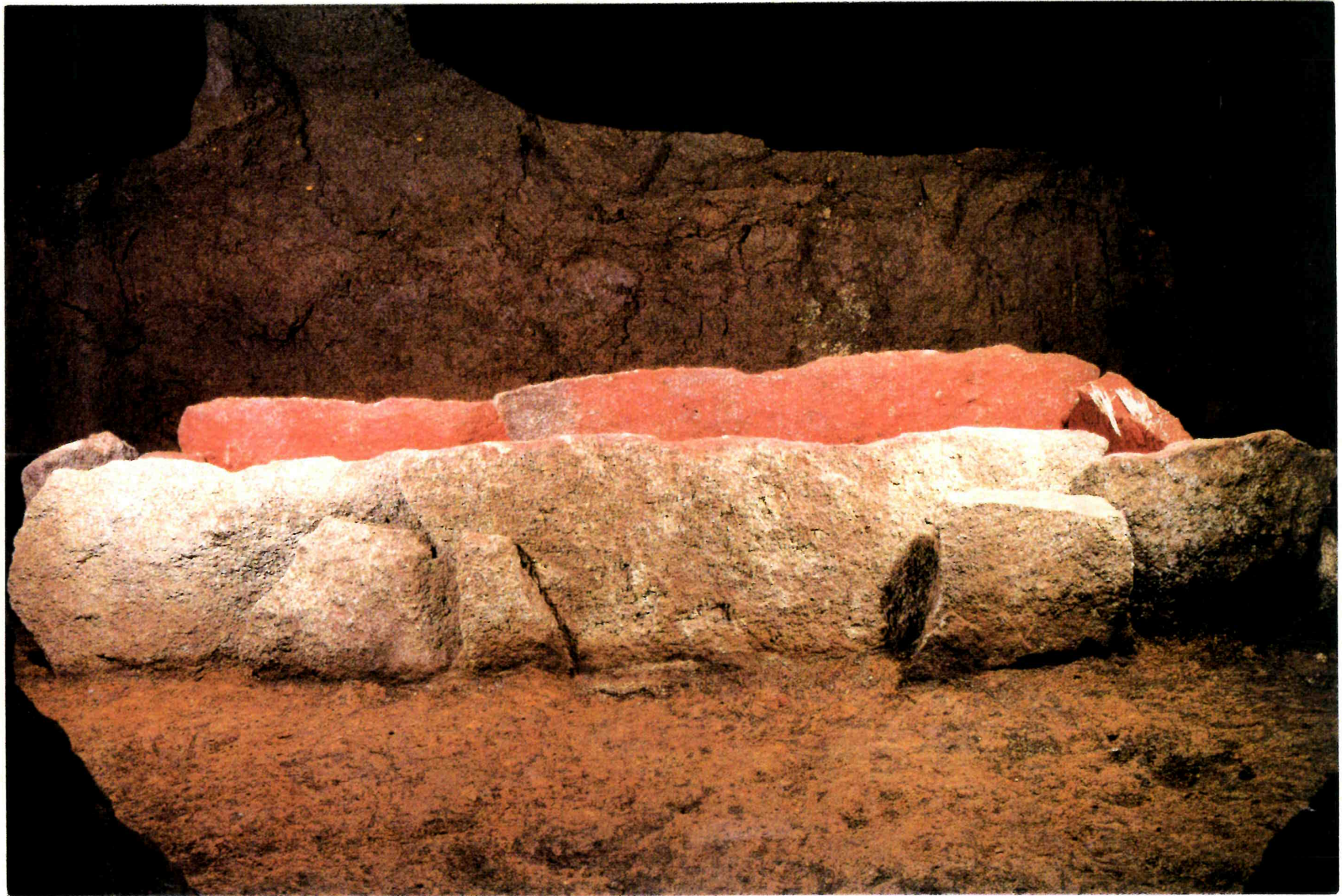
写真図版 149 鹿児島県鹿屋市串良町岡崎18号墳 1号地下式横穴墓
『絵葉書』鹿児島大学総合研究博物館、発掘！鹿児島の古墳時代。
12. 石棺の内面が、赤く塗られている。

由 697-9/18 114

「岡崎古墳群」口絵

697^r 13/18

- ・ カラー
- ・ 左頁の
上半分。
- ・ 左右にはみ
出して大きく
掲載下さい。



「岡崎古墳群の研究」
口絵

- 14Q4 写真図版150 鹿児島県鹿屋市串良町岡崎^{かのや}18号墳^{おかざき}2号地下式横穴墓
- 13Q4 『絵葉書』鹿児島大学総合研究博物館、発掘！鹿児島^{かごしま}の古墳時代。
- 12Q4. ^{せつかん}石棺^{ないめん}の内面^{まつか}が、真赤^{ましか}に塗^ぬられている。 410

697^r-9/18.11行

697^P - 14/18

大さな石で 696-3/11 六野原才2号
とハ別

コクヨ ケー20 20×20

411

⑦ 701^{P-4/5} 12行 善道 下か 下か

・カ一
・頁上半分に大まぐ掲載下さい。
・明3<17おいて下さい。

五世紀の550
ヤマト統一後格は、
由 698-11
短甲の存在有り。

697-15/18



412

1409 中込羽りわけ

厚真図版

151

横矧板鋌留短甲

西都原4号地下式横穴墓出土

＜ 前2/164

中込羽りわけ

1209 中込

(宮崎県)

西都原4号地下式横穴墓出土

1309 中込

『三次元レーザー計測を利用した古墳時代甲冑研究の新展開』 2013年10月21日(月)

～ 12月20日(金) 奈良県立橿原考古学研究所 1頁参照

開校 大正
由701-6/6

697P-16/18

一概に ひくめておいて
概 下に打削の語を伴う

「~~従来~~、弥生系の畿内の人々に対し「~~卑人~~」
は縄文人の系譜を引くと~~考~~考えられていた。
しかし、南九州出土の古人骨の調査を続け
ている鹿児島女子短期大助教授の竹中正巳氏
は、
「色々な集団が入り交じっていたようで、
一概に言えない。
出土人骨だけを見る限り、南九州と他地域
の人々を厳密に区別する~~のは難しい~~
という。
また、宮崎県立西都原考古博物館主査の東
憲章氏は、
「卑人が畿内政権と対立していたという文
献の構図を古墳時代に当てはめるのは、もう
無理があるし
と指摘する。(3)へ参り変わる卑人像」参照
参考までに、宮崎県西都原古墳出土の石舟
型埴輪の写真を載せておくことにしよう。
(写真図版参照)

695P-16/

②-102F 5行R
F 日向卑人・大隅卑人」と書いてある

697P-17/18

696P-1/11
2へ3行

地下式横穴の年代

一説に、

地下式横穴の起源を、北九州系の横穴式石

室に求める考え方があ

という。(②) 一〇二頁参照

★ 一かしながら、

卑人(日向卑人・大隅卑人)達か、北九

州の横穴式石室を真似て地下式横穴を作るよ

うになったのではなく、

と自称する倭人達が、

年(後のかなり早い時期から、九州南部地

域)において、地下式横穴(高塚の内部に

横穴式石室を設ける墓の先行形式)を、ひ

ろり築いていったのだらう

と推測される。(第3表参照)

つまり、大略、

地下式横穴から、横穴式石室へ移行した

のであらう

と思われる

第192図(崖墓から高塚式古墳へ至る

断面形状の推移(想像図)参照

地下式横穴築造時期の下限を見つみよう。

熊本市 (旧植木町) のマロ塚古墳

第13図 八邪馬台国の「洛陽城」想像図の
西北隅に「孤立丘」横山 (一五一〇) は位

置いてある。

横山山頂の東北約三時に「マロ塚古墳」

(高熊二号墳) がある。(第193図 八横山周山地

図 参照

一か一実は「マロ塚古墳」の正確な所在地す

ら不明であり、マロ塚古墳出土遺物が発見さ

れた時の状況もよく分かっていない。

第二世界大戦直後「農民が埋葬施設を偶

然掘り当てた」とかきつかけと「なつた」

寺院に預けられ、その後点々と保管場所が

変わり、一九八一年 (昭和五十六年)

肥後マロ塚古墳出土品は「国の重要文化財」

に指定された。

マロ塚古墳出土品として伝えられているもの

の、眉尻付甕二頭、衝角付甕一頭、五段鋳

④ 696^p-1/10

新々(1)-97th

2024.07.11

高船2号墳
下土。}

$$\frac{199}{753} = 130\%$$

コバヤシ 社
ナカニ

植木を、
2ホム大きい、
コナ

698P-2/8

14 Q4

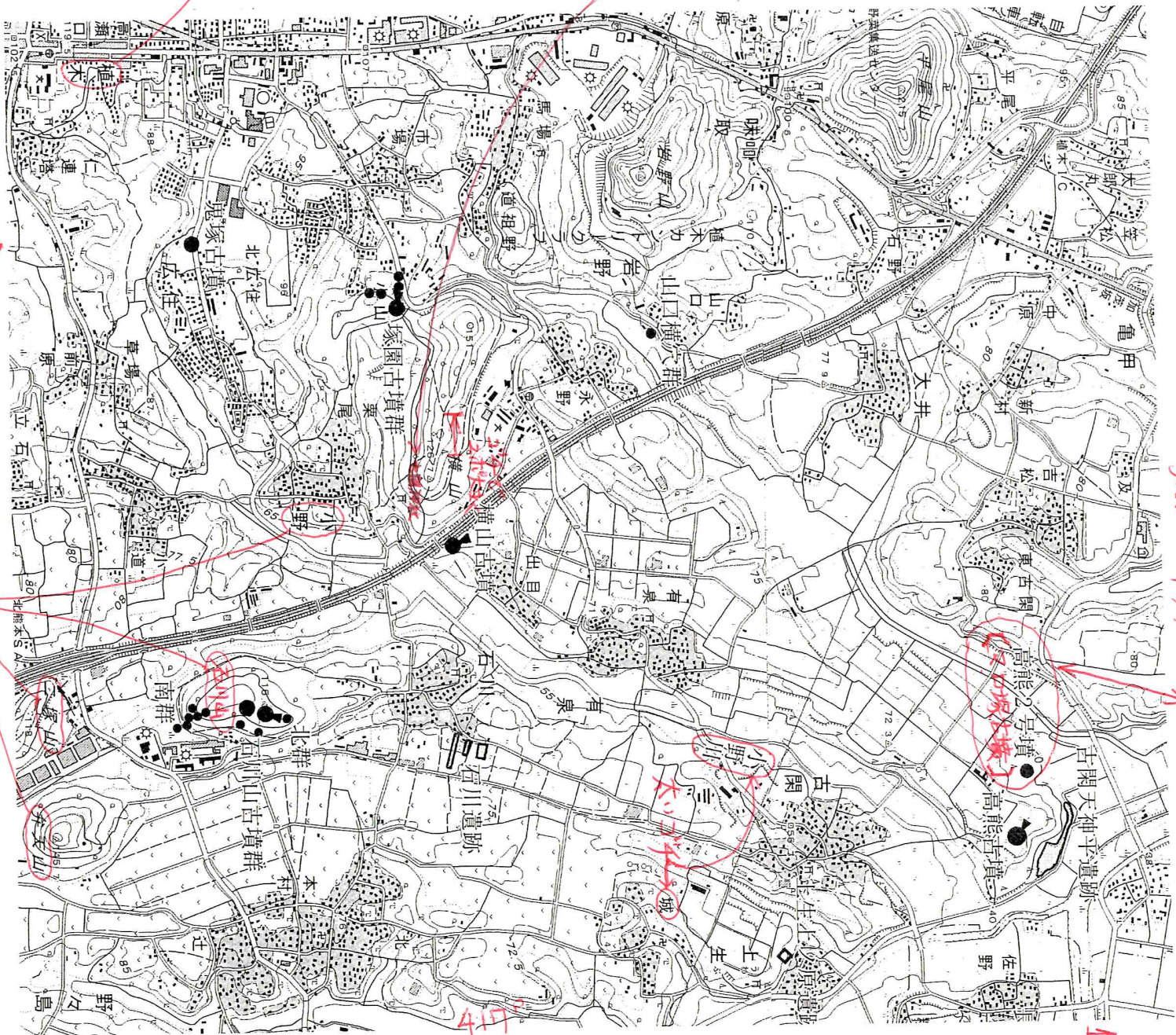
第 11 頁

又考 横山周边地区

次原の地図を
二回印刷して
1/17おいて下さい

⑤ 2318⁸-25 4行

417^p



カラ-
右頁全図に
大きく掲載。

甲 1859°
カ. 11.0.0.11.22

左へ移動



中心よりわけ(1/2)右斜め下へ移動)
1304ゴ4 ニバビバビとあ まはさ(カバヒ)

写真図版 152

小札銀留式眉庇付冑

【重要文化財】

移動

右へ移動

698R 4/8コ

⑪

よこはき"いたび"とあ

中心よりわけ
1304ゴ4

右へ移動



写真図版 153

横別板銀留式短甲

【重要文化財】

中心

へんこ

1304ゴ4

中心よりわけ
1204ゴ4

熊本県熊本市(旧植木町)

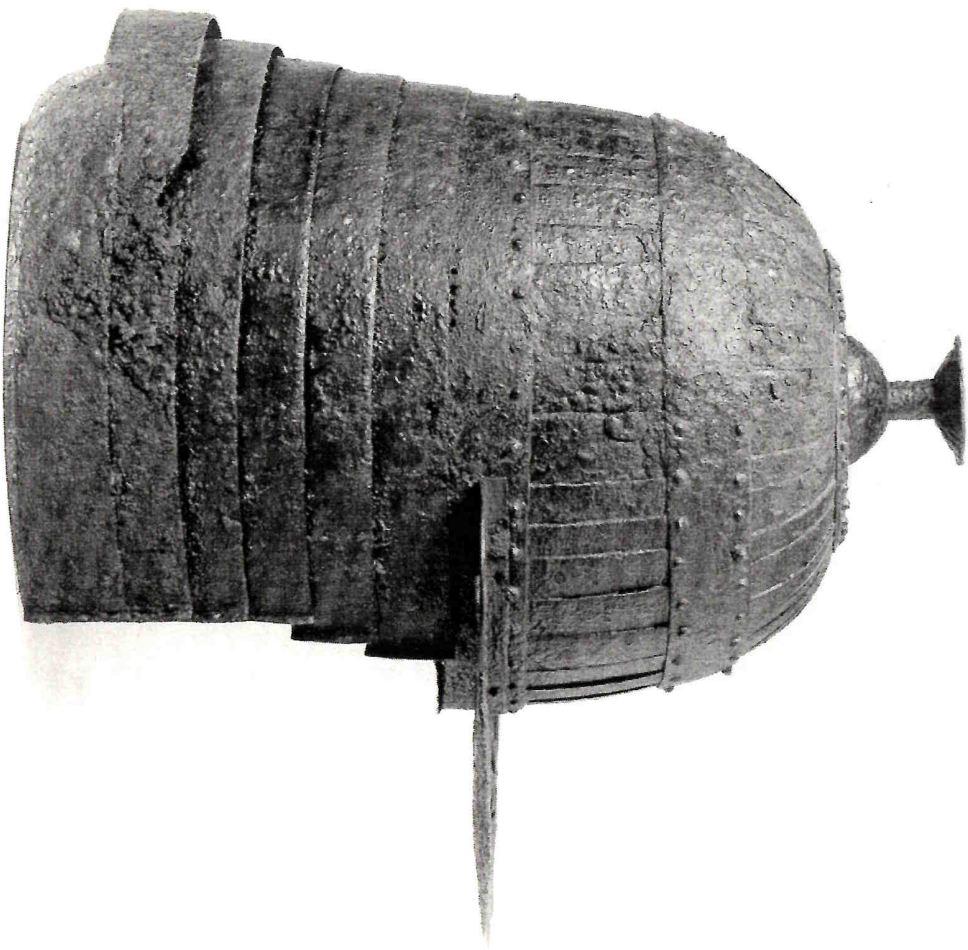
『マコ塚古墳』出土

『鉄とヤマト王権』大塚正正 近つ飛鳥博物館、平成22年10月2日発行 109頁参照

左側の上方向に掘載して下さう。

さうの1379のヨコヒ

⑥699-15/



420

ヨコヒ

698P-5/80

1404

写真図版 154 1号眉庇付胄と1号鍔(首を覆うもの)の組合せ

1304

『シロ塚古墳出土品を中心とした古墳時代中期武器武具の研究』杉井健・上野祥史

国立歴史民俗博物館、平成24年(2012)3月30日発行、図版23-2参照

- ・ 鍔が下へ伸びて示しているところを、⁽¹⁾ 足⁽²⁾ キ⁽³⁾ 小⁽⁴⁾ 皿⁽⁵⁾ は、持ち運ぶの際の便宜のため、⁽⁶⁾ 設けられたのだらうか。
- ・ あるいは、⁽⁷⁾ 布片⁽⁸⁾ 旗竿⁽⁹⁾ などが取り付けられたのかも知れない。

高麗屋画 ⑥699-20/25-21/25

⑥699-25/25

⑦1859/1254

698² 6/8

・ 左頁の下方部に掲載

・ この写真の上に、
新入の写真



を

西に置いて下さい。



中心部 14²⁴QG — 写真図版 155 ^{かっちゅう}申胄 【重要文化財】
中心部 12²⁴QG — ^{うえき}〔熊本県熊本市(旧植木町)マロ塚古墳出土〕
^{つが}

²⁴13QG — 『鉄とヤマト王権』大阪府立近の飛鳥博物館 平成22年10月2日発行 108頁参照
421

698¹ - 7/8

二段鍛^{ニダンカ}短甲^{タンカウ}一領^{イツリョウ}「頸甲^{ケイカウ}三領^{サンリョウ}、鉄刀^{テツドウ}（ち口^{チクチ}）」
 鉄鉾^{テツホウ}（三口^{サンコウ}）「鉄鏃^{テツヤク}（残欠^{ザンケツ}共44本^{トモニヒトツツヨク}）などかあ
 る。（写真^{セウシ}因版^{インパン}152⁸、153²、154⁸、155⁸参照）
 ・鉄製^{テツセイ}武器^{ブキ}・武具^{ブキ}類^{ルイ}は、いずれも鏃^{ヤク}の形状^{ケイカウ}な
 ど、細^{ホソ}かく観察^{カンサツ}図^ズでできるほど^ト良好^{リョウカウ}な
 遺存^{イセン}状態^{ジヤンタウ}を保^ホち、鏃^{ヤク}に覆^フわれていない鉄製品^{テツセイヒン}
 の姿^{サマ}を今^{イマ}に留^{とど}めている「
 という。「鉄^{テツ}とヤマト王権^{ヤマトオウケン}」大阪府立近^{チカ}つ
 飛鳥博物館^{トビノ}「平成二十二年十月二日発行」一
 〇八¹九頁¹「マロ塚古墳出土品を中心^{チュウシン}に」
 た古墳時代中期武器武具の研究^{ケンギョウ}杉井健・上
 野祥史^{ノノサマシ}「国立歴史民俗博物館」平成二十四年
 三月三十日発行「一九¹三七頁¹図版^{ズバン}1¹73
 参照」
 北九州地方^{キタキウシュウ}一冊^{イツサン}に「古墳時代中期の武器^{ブキ}回^{カエ}
 武具^{ブキ}類^{ルイ}を多量^{タリョウ}に納^{おさ}める古墳^{コフン}は多^{おほ}くなく「
 (1)福岡県浮羽市月岡古墳
 (2)福岡県八女市真浄寺古墳
 (3)福岡県行橋市稻堂二一^{ニヒト}号墳
 などから出土した甲冑^{カウゾウ}類^{ルイ}が知られている」
 刀剣^{タチ}数^{カズ}を
 15⁸ 甲^{カウ} 24⁴ 乙^イ 24⁴ 丙^{ヘイ} 24⁴ 丁^{テイ} 24⁴ 戊^ゴ 24⁴ 己^キ 24⁴ 庚^{ケイ} 24⁴ 辛^{シン} 24⁴ 壬^{ネイ} 24⁴ 癸^{スイ} 24⁴

698^P 8/8

飛鳥博物館「平成二十二年十月二日発行」

の八頁参照

聖徳太子への金人の夢告の後、北九州地方

に点在していた天皇の祖先達の霊と共に陪塚

内等に副葬されていた大量の鉄製品もまた

畿内地方へ移されたのだろうか。

だが、マロ塚古墳の例もあるのだから

取り零してしまった鉄器類が今後「見

い出される可能性もあろう。

なお「マロ塚古墳のような調査不備が発

生するのを未然に防ぐため」予め九州全域

(肥後・筑後・筑前・肥前・豊前・豊後・

日向・薩摩全地域)にある大小の山々、ほん

の小さな丘迄「トローリー鉄部材が埋設されて

いなかどうか、磁石で検知する必要がある

あるのかも知れない。

〔高性能の磁石〕等

マロ 98~99⁺
110⁺ 太い線の○にて
下を (同じ大きさの○) 699^P - 1/24

近畿地方の鉄器多量埋納古墳

鉄器も多量に副葬する古墳は、古墳時代前期からある。

■古墳時代中期には、前方後円墳の前方部や

陪塚に人体を埋葬せず、多量の鉄器を埋納する

中期の鉄器埋納施設は、遺体を納める施設

から離れ、独立している点が特徴的である。

以下、鉄器埋納施設の代表例を挙げてみよう。

印は武器型、印は甲冑型を示す。

○恵解山古墳 (京都府長岡京市) 全長一三〇

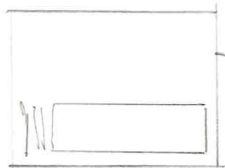
前方部の鉄器埋納施設から出土した鉄鍔九

二〇点以上の鉄器は、刀剣三四〇本、鉄鍔

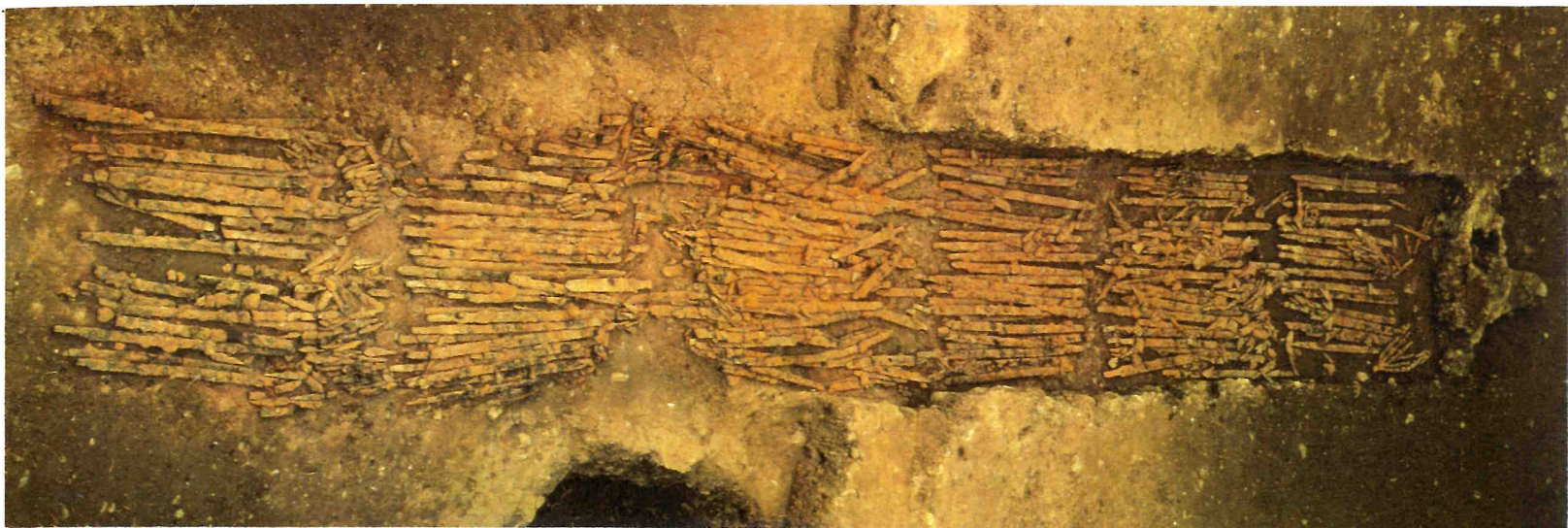
五七〇本、ヤス状鉄製品、鉄手刀子などから

- ・カラー
- ・裏の右(右<は左)の端、上から下まで、細長く配置して下さい。
- ・上下を間違えるゝて下さい。

(例) 右(右<は左)の裏



699^p-2/24



425

中心3.11カサ
1424 34

中心3.11カサ
1324 34

写真版 156 前方部中央の鉄器埋納施設

〔京都府長岡京市、恵^い解^か山^{やま}古墳(前方後円墳)〕

『鉄とヤマト王権』大阪府立近つ飛鳥博物館、平成22年10月2日発行

99頁参照

マロ88^P

699^P-3/24

④ 1484^P-1/2 鉄錠の出土有る。
H30.(2018)12.8(日)

マロ98^P

なッテいる。(写真図版56参照)
・人体を埋葬した痕跡は認められない。

前方部中央に

○大和六号墳〔奈良県奈良市マロワナベ古墳〕
の陪冢と考えられている直径約二五メートルの円

墳
・粘土板から鉄錠(鉄の薄い延べ板)ハセ
二枚
農工具七〇八点などが出土した。

・鉄錠は、総重量が約一四〇キログラムもあり、日本
列島で出土したものとでは最も多い。
・この円墳には、人を埋葬した痕跡が認めら
れない。

○アリ山古墳(大阪府藤井寺市、心神社古墳
の陪冢と見られる。一辺四五メートルの方墳)
・中央、南、北の三つの施設が見つかっている。

・中央施設は盗掘されていたが、
五メートルの楕円形の範囲に赤色顔料が散布され、遺体の
埋葬が推測されている。
・南施設は、盗掘により、詳細不明。

・北施設（東西長三メートル、南北幅一・四メートルの土壇）出土の鉄器は三層に別れ、上層に鉄鍬一五四二本、中層に剣八五本・槍八本・鉾一本、下層に九二九点の農工具があった。

＊北施設に、人体埋葬の痕跡は認められなかった。

○西墓山古墳（大阪府藤井寺市、墓山古墳の陪塚とされる。一辺約二〇メートルの方墳）墳頂部やや東寄りで、組合せ式の細長い二列の木櫃（木製容器）が見つかった。

・東列施設（長さ五・九メートル、幅〇・七メートル、深さ〇・二メートル）内には、刀剣、槍、鉾、鉄鍬などの武器類が約一八〇本あった。

・西列施設（長さ六・二メートル、幅〇・六メートル）内には、鉄剣一四本、鉄製農工具など約一〇〇点が納められていた。

・この施設は武器中心の東列と「農工具中心の西列が対照的である。」

・東西両施設に、人体埋葬の痕跡は認められ

699^P-5/24

原文には
「築成」とある

ず「副葬用陪塚」の可能性が指摘されてい
る。

●七観古墳（大阪府堺市「径約五〇メートル、高土
ハジ、二段構成の円墳で、屢中陵古墳の陪塚の

一つと考えられている）

●三基の粘土槨から、短甲六領、衝角付冑七
頭、馬具、刀剣約一八〇本、鉄鏃一〇〇本、

斧、ヤリガンナなどが出土した。（写真図

版157・158参照）

●いすめの粘土槨から、遺体の埋葬痕跡が

認められておらず、副葬品のみを埋納した古

墳だった可能性が大きい。

●野中古墳（大阪府藤井寺市「墓山古墳の北
に位置する陪塚と考えられている。一辺三七

メートルの方形墳）

●墳頂部から、木箱に納められたと考えられ

る五列の遺物群が見つかった。

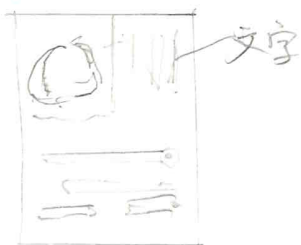
（イ）第一列から、短甲一〇領、冑一〇頭、刀剣

の左上(1/4頁)に

699p 6/24

・カラー

・右頁の左上(本頁)に掲載下さい。
(大きくはみ出させてください)



1404

写真版 157

・たてはざらついたぶようどめ(ようの)やつきかひと
豎矧細板鉾留衝角付冑

(大阪府堺市七観古墳出土)

1304

『鉄とヤマト王権』大阪府立近・飛鳥博物館、平成22年10月2日発行、43頁参照。

1204

・てっぺんの飾りが有るものも、無いものも出土している。 429

・カラー
・右頁の下半分に掲載下さい。

699P-7/24

新ヤ(2)-339頁上 横田遺跡出土
素環頭大刀



142G 写真図版 158 ^{そかんとうたち}素環頭大刀・鉄剣・鉄刀 (大阪府堺市七観古墳出土) (素環頭大刀長 88.8 cm)

132G

『鉄とヤマト王権』大阪府立近つ飛鳥博物館、平成22年10月2日発行、44頁参照

122G

・九州地方出土の^{そかんとうたち}素環頭大刀も、近畿地方出土の^{そかんとうたち}素環頭大刀も、ほぼ^{ほぼ}同様の^形形態であることが^わ分かる。
(写真図版104 ^{よこた}横田遺跡出土の鉄製素環頭大刀)参照。九州地方から近畿地方への文化の^は波及^はを示しているのであろう。
(弥生後期)

新ヤ(2)-339頁上

新ヤ(2)-338P下末5行

430

699-8/24

・わろー

・左頁上半分に掲載



1424

写真図版 159 甲冑^{かっちゅう}の出土状況^{ばうきよう} (大阪府藤井寺市^{ふじいでし} 野中古墳出土^{のなか})

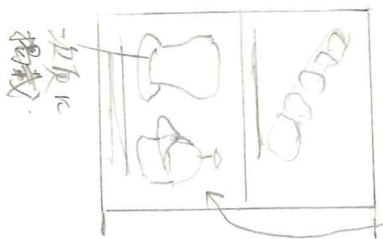
1364

『鉄とヤマト王権』大阪府立近つ飛鳥博物館 平成22年10月2日発行 56頁参照

左

右半部

・カラー
・左頁の右下半部に、
大きく掲載



(野中古城出土)

699P- 9/24

1424

思真図版 160

ニルビツツとてのまびエ(注カ131と
小札銀留眉庇付骨

(* 参考資料 等) ¹⁴²⁴ 思真図版 160 次頁に掲載 (711)

・カラー
 ・左頁の
 左下板に
 大々
 掲載。

699^P - 10/24



433

冊子4頁

左頁の中央に配置

ひょうとあ たんじ

三角板銀留短甲

120g

写真図版 161

130g

〔大阪府藤井寺市野中3丁目（^{ひょういち}古市古墳群中央）野中古墳^{（のなかの）}出土〕

『野中古墳と「後の五王」の時代』高橋照彦、大阪大学出版会、2014年2月

1日発行、11頁（短甲）、22頁（背）参照。

・カラー
 ・右頁に、おまじない大ま
 ・花載
 ・下引。

699P-11/24



434

1404
 1304
 写真図版 162 大阪府藤井寺市野中3丁目(古市古墳群中央)野中古墳出土 甲冑
 『野中古墳と』後の五王の時代 高橋照彦、大阪大学出版会、2014年2月1日発行
 2頁参照 (＊冑上に、小皿状の突出部が取り付けられている)

699P12/24

— 一点

④ 第二列から「短甲一領」「胃一頭」「鉄鍬六二

五本」「刀子二本」「ヤリカン十一二本」

⑧ 第四列から「鉄釘二五〇点以上」

⑨ 第五列から「鍬・鍬・鍬・ヤリカン・鎌・鋤」

加出土した。(写真図版)

・なお、第二列には朱の散布がみられ、人体

埋葬の可能性が考えられるという。

● 黒姫山古墳(大阪府堺市) 全長一一四mの

前方後円墳

・後円部の竪穴式石室は、戦時中に破壊され

詳細不明である

・前方部の竪穴式石室から「短甲二四領」「衝

角付胃一頭」「眉庇付胃一三頭」「刀剣約一四

本」「鉄鍬五六本」「刀子五点点出土し

た。(写真図版参照)

・前方部に人体を葬った痕跡は無い

・甲冑の数は、一つの古墳からの出土数では

コクヨ ケー20 20×20

699P-13/24

・頁の上半部
に大きく
掲載下さい

・暗くならない
ように注意
して下さい。
[明るくお願
いします]



中へ3つわけ
コ4
13Q4

(頭部を保護するためのかぶりもの)

中央が「襟付き短甲」(前胸の
高さ35センチ、後胸の高さ47.8
センチ)。タートルネックのよう
な襟がつき、後胸上部が極
端に広く角張っている。背
のうしろ、野球帽のような庇
がついたものは「肩底付き
背」、先の角張ったものは「衝
角付き背」という。前列は
右の2つが短甲の胸部、
肩鎧、左の3つは背につけ
る鎧

かぶり

かざし

まびき

はうか

百科事典④-200P

よろい

にろ

12Q4J4

写真図版 163 大阪府南河内郡美原町の黒姫山古墳(前方後円墳)から出土した24の短甲のうちの一部

「戦後50年 古代史発掘総まとめ」アサヒグラフ別冊 1996年4月10号 朝日新聞社 35~37頁参照
13Q4コ4 436

日本最多である。
 *因みに、甲冑出土数の第二位は野中古墳、
 第四位は七観古墳である。

いすれも、五世紀前葉から後葉にかけての
 古墳で、埋納された鉄器は個人が使用する量
 を遙かに超えている。

④鉄器の内容については、
 ①恵解山古墳、アリ山古墳、西墓山古墳のよ
 うな甲冑を全く含まない日武器型

②七観古墳、野中古墳、黒姫山古墳のよう
 大量の甲冑が埋置される一方で武器が比較
 的に少ない日甲冑型

④日甲冑型は、
 大き分けられる。
 うだ、
 いう。 (鉄とヤマト王権) 大阪府立近つ
 飛鳥博物館「平成二十二年十月二日発行」一
 一〇頁等「戦後50年」古代史発掘総まくり

朝日新聞社「一九九六年四月一日号」三五頁

〈黒姫山古墳〉参照

蛇行状鉄器 ⑥696¹-9/10末
109 ⑥699¹-19/21 ⑥697¹-1/183行 699¹-15/24

⑥699¹-20/

⑥696¹-9/10末

【蛇行状鉄器】「蛇行剣」(旗立て)

埼玉県行田市の酒巻14号墳から、
旗を立てた

馬形埴輪 (高さ七四・五センチ×全長八〇

七センチ) が出土した。以下、写真図版(164)

165 (蛇行状鉄器) 参照

旗部分は下口蛇行状部分 (ラッパ状の旗)

立てると、旗竿から成り、旗竿は別

ツになつてゐる。

旗を立てる部品を伴う馬形埴輪の出土は

我が国唯一の事例だ

朝鮮半島北西部にある双楹塚古墳の壁画に

旗を立てた騎兵の姿が描かれている。(第194・195参照)

日本国内の遺跡からも、実際の馬具としての

蛇行鉄器 (10点) が出土している

という。(「北武蔵の埴輪」酒巻古墳群を中

心として、埼玉県行田市郷土博物館「平成二

十五年十一月二日発行、一九頁。他参照)

蛇行状鉄器は、なぜ高句麗(および

(一六六八)

1巻表
蛇行状鉄器

カウー
右頁全冊
大々掲載
下さい。

699P-16/24



1484
写真図版 164 顔を立てた馬 (酒巻 14号墳出土)
1384
『はにわ・酒巻古墳群の世界』埼玉県行田市郷土博物館。平成19年6月発行
1頁参照

696P-9/10 21行 699P-16/24 439

七 龍行全 696P-9/10

イナギ
721P-16/24 1802
-2/5

697-8/12 部 トル 699-17/24

・カラー
・左頁の
上半分に
配置
下さい。

全てゴタ

蛇行状鉄器は実際の形状に忠実で、鞍との接着部は
ほぼ鞍の後輪に一体化し、後輪に沿うように半円状に
開いている。おそらく鞍に蛇行状鉄器を止め付けてい
る表現と考えられる。先端は2度の屈曲をもって立ち
上がり、旗受け部はラッパ状に開いている。^(旗立て)
旗竿は別造りになっており、蛇行状鉄器の受け部に
差し込むようになっている。<sup>(赤土の赤みが強いが、朱
などの塗布は認められない。旗部分は三つ又に分かれ
ており、実際の旗の形状を推測させる。)</sup>



はたざお
旗竿

中心よりわけ
13QGゴタ

12QG

中心よりわけ
13QGゴタ

13QG



蛇行状鉄器 (旗立て)

『北武蔵の埴輪』酒巻古墳群を中心として
埼玉県行田市郷土博物館、平成25年11月発行
20頁参照

440P

この赤枠は、不要。(ほんの参考までの説明) 横書き

699P-18/24

ピンク不要です。 6972-2/159

蛇行状鉄器

「旗を立てた馬形埴輪」で確認された蛇行状鉄器は、国内では古墳の副葬品など約10点しか出土していない。このうち、近隣の事例としては埼玉古墳群の將軍山古墳から出土している事例が挙げられる。この蛇行状鉄器は半円状の鞍への着部と蛇行した旗受け部分とに分割されている。將軍山古墳から出土した破片は全部で5点あり、同形の2個体分であると推測される。蛇行状鉄器は、出土した古墳の年代から、5世紀後半～6世紀後半頃に用いられていたと考えられ、出土事例はあったものの当初は用途が不明であった。「旗を立てた馬形埴輪」の出土がこの鉄器のこの鉄器の用途を解明したという。



おそらく、酒巻14号墳の埴輪をつくった人々は実際に旗を立てた騎馬の姿を見ていたのだろう。

將軍山古墳出土 蛇行状鉄器
(画像提供：埼玉県立さきたま史跡の博物館)

696-9/10 69728/18

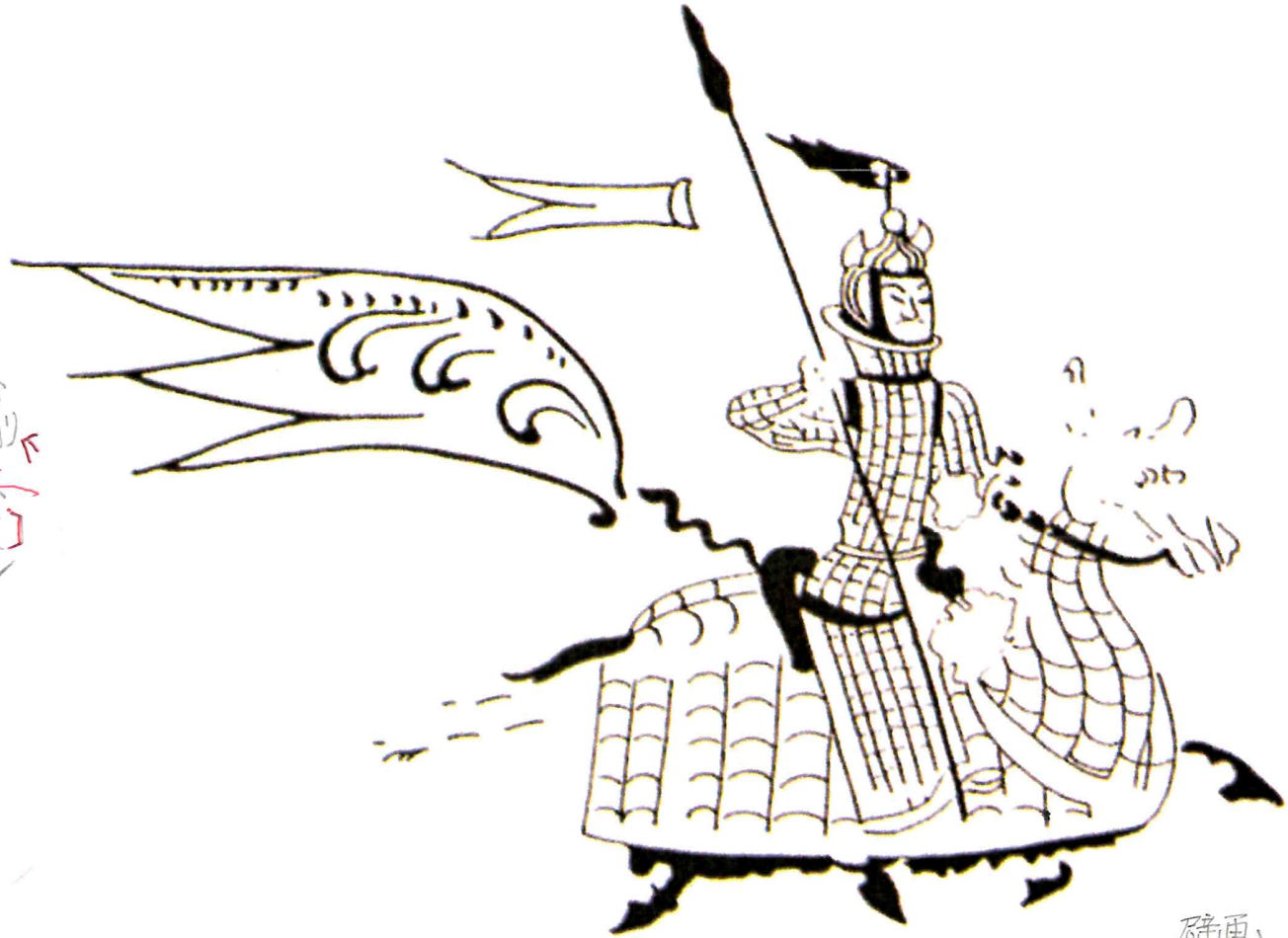
写真図版 165 蛇行状鉄器

699^P-19/24

大きく
右頁全面に掲載
下さい。

内カ
三つに分けた旗
(前頁) 三つに分けた旗
三つに分けた旗

さかまき
12QG
酒巻14号墳で出土した馬形埴輪には、鞍
の後ろにソケット状の筒が~~付~~はられており、
ここに別パーツの旗を取り付けるようにな
っている。
【先端が三つに裂けた旗】
日本や朝鮮半島の古墳で出土~~し~~、埼玉古
墳群の將軍山古墳からも出土している「蛇
行状鉄器」とよばれる奇妙な鉄製品
は、旗を立てた馬形埴輪の出土により、
旗竿である事が確認されたといつてよい。
旗を立てた馬~~に~~は、高句麗の古墳
壁画にもその例を見ることができる。



壁画

戦後50年
古墳群の調査
181ページに有る。

142G

第194

高句麗の重装騎兵 (高句麗・双楹塚)

132G

『はにわ・酒巻古墳群の世界』埼玉県行田市郷土博物館 平成19年6月30日発行 2頁参照

122G
胃の鉢の頂上には、~~小~~皿状の支持部が有る。
「旗竿」の基部を固着はのたろうか。
この窪み内は
442^P

698^P上

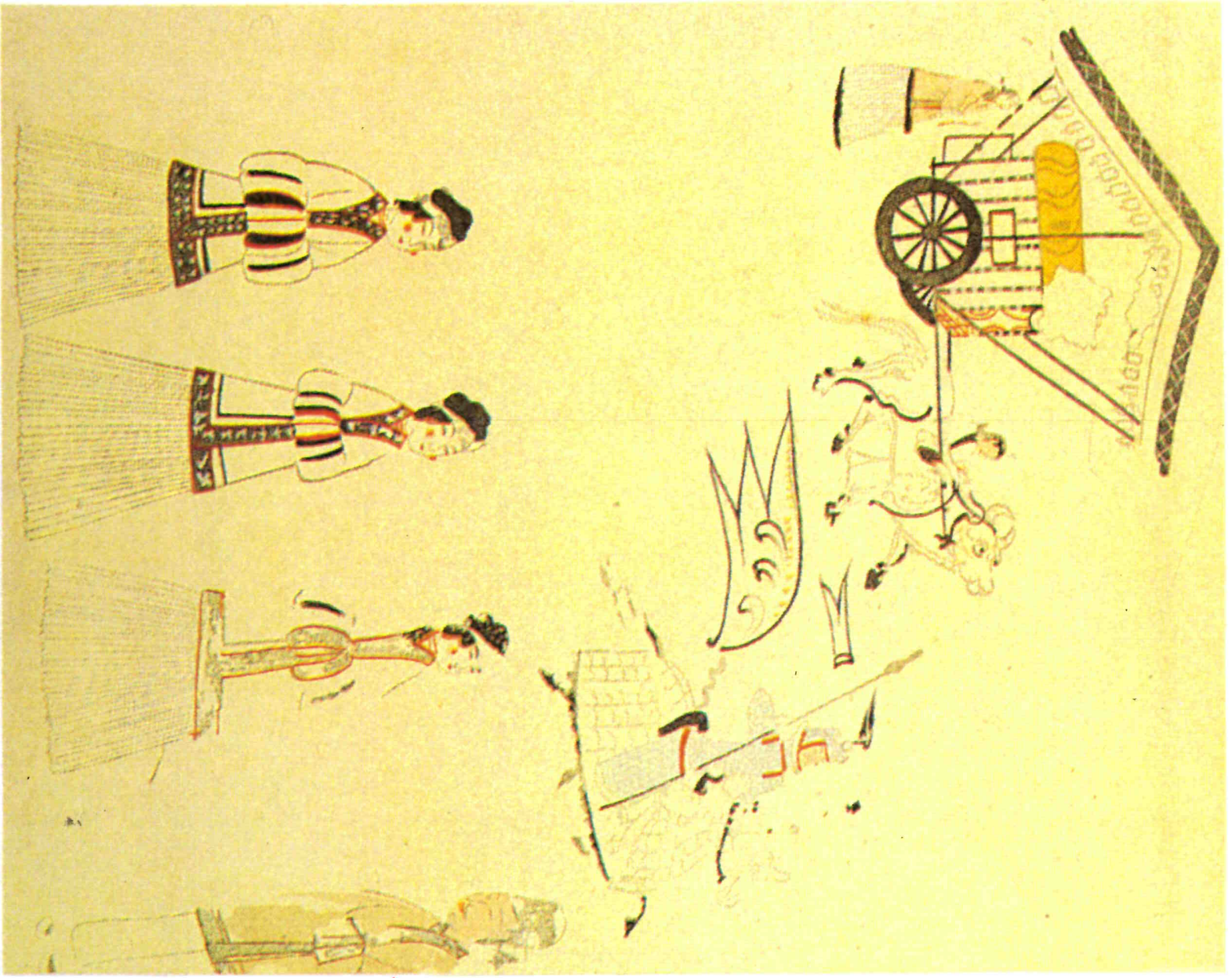
・カラー
 ・上、右、下もカットしない
 下さい。

・左頁全欄
 に載せ
 下さい。HV

(厚紙か
 小紙か)
 さい

HV
 この男真の
 左側に、
 (前頁左の)
 文字群がくさる

699^p - 20 / 24



443 高句麗の武裝古持ツリニ付 冊 2386^p
 二の人物が重要。カットしない。

第195図 高句麗時代の双楹塚古墳壁画 (五世紀後半)

戦後50年、古代史探掘総まくり、アサヒグラフ別冊、朝日新聞社、1996年4月発行

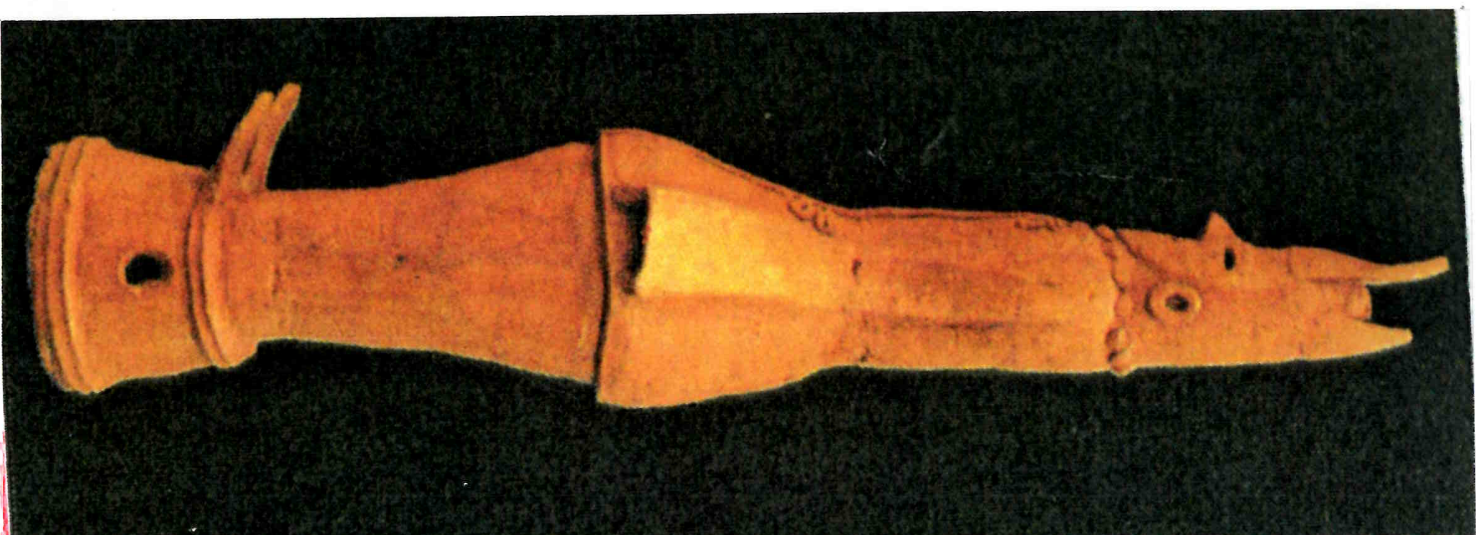
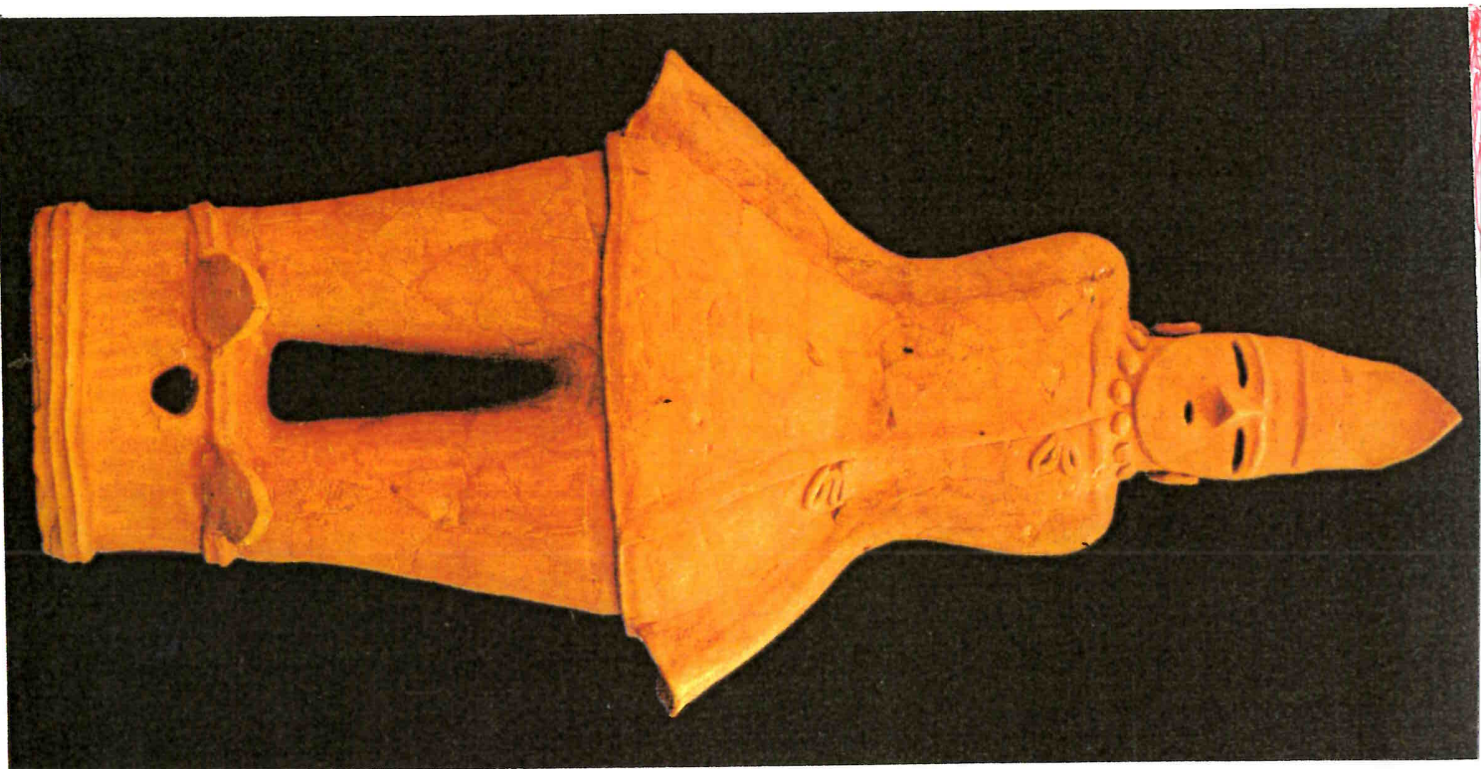
181頁参照
 右端の男は、筒袖、右前の衣服を着ている。下衣は、くびきのないズボン状である。

・カラー
・左右の厚木の高土を揃える。
（黒くする。）

右側の
上半分に
載せ
下さい。

由695¹ - 13/28
全端 29

699P-21/24



444

高さ116.1cm×幅43.0cm 重要文化財

1409
写真図版166 筒袖の男子埴輪

1309
『北武蔵の埴輪』酒巻古墳群を中心として、行田市郷土博物館、平成25年11月

444

又日発行 又複製貼付

ワキテマ、ハル

ヒツシ

・上は手先が見えな1程長い筒袖。衣服の衿めせは左前で2ヶ所に紐留めがある。
下はくびれのないスポウ状。靴はハ先が上と反対向きである。大きなウイングが腹

・従来の日本の風習とは、異質な点がみられる。

酒巻古墳 ④1716¹ 4/5
⑤1802¹ 3/5

⑤ 699P-16/25

699P-22/24

みずら 美豆衣 1802P-5/10行

殷民 はたの像

ありいほ ⑥ 699P-15/12行

日本列島で用いられたのかは、分からない。

④ もーかーたら、

へ朝鮮半島北西部に住む扶余系殷民の子孫

庫と日本列島に住む扶余系殷民の子孫と

か、細々とながら、交流を続けていたのでは

なからうか✓

とも思われるが、確証は無い。

⑤ 同時に出土した男性埴輪(二体)も高句麗との共通点

① 頭髪を下げ美豆衣にしている。(一六六八)

② 手が隠れるほど長い袖の服を着ている

③ スポンを途中で絞る脚結が無い

④ 裾広がりのラッパスポンでなく裾すぼまり

⑤ 先の反りあがった靴である

⑥ 先の反りあがった靴である

⑦ 字真図版 166 戦後50年 古代史発掘総

⑧ まくり朝日新聞社 一九九六年四月発行

⑨ 一ハ〇二二頁参照

⑩

⑪

⑫

モロコシ 212号 698P-9/12

699P-23/24

虫記行全 696P-9/10 末 699P-1/1839

小四 698P-9/12

● 描か水ている (第194・195図参照) 竿の基部を、どのようにして胃に固着した

朝鮮半島北西部「双楹塚古墳」の壁面には、
重騎兵の絵、
へ、
天辺に、
旗竿状のものを取り付けた

など、想像される。

のかも知れない。

見えない

あるいは、足つき小四に布片を括り付けたり、旗竿を立てたりした

し、見映えはあまりよくないし、勇ましく

胃の上に固着しているのだろうか。

どのような理由によつて足つき小四

付けたものがある (写真図版169等参照)

眉底付胃の天辺に足つき小四を取り

胃の天辺の足つき小四

・カウ-
・右の左上に配置 (本頁)
背景を、長方形にしておいて下さい。
(現在、谷和村になっている)

左側と同様、明子へお送り下さい。

699P-24/24 699P-24/24



447

1404

1204

正面に半月形の化粧のりがある。金銅製と17は貴重なもの。
・かぶりの鉢の頂上へ、小皿が有る。

千葉県更津市祇園大塚山古墳出土。東京国立博物館蔵。総高17.8cm。
『大王の世紀』上田正昭、小学館、1981年3月20日(5刷)発行、口絵7頁参照。

H30(2018)1.7(田)~8(4回)

H30(2018)12.8(田)~12.9(3回)

令和1(2019)5.7(火)~5.8(3回)

令和1(2019)12.7(土)~12.8(3回)

令和2(2020)8.6(木)~8.10(4回)

令和3(2021)3.3(火)

700P-1/9

の
か
は
明
瞭
で
な
い
で